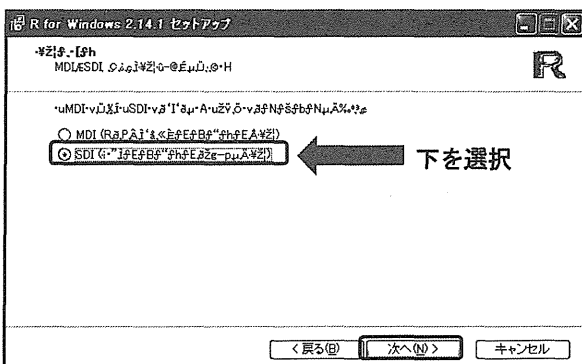
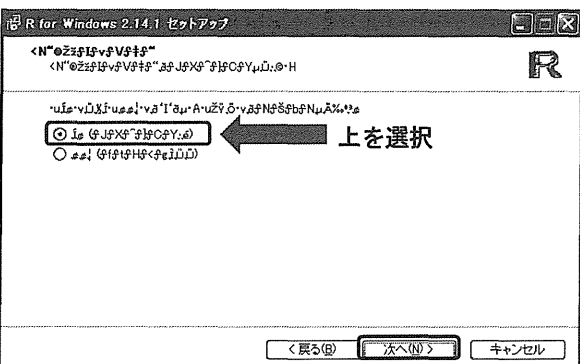
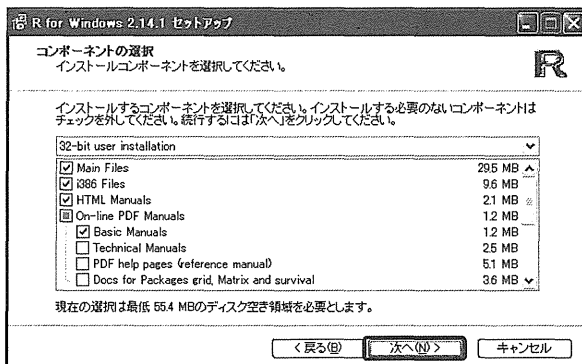
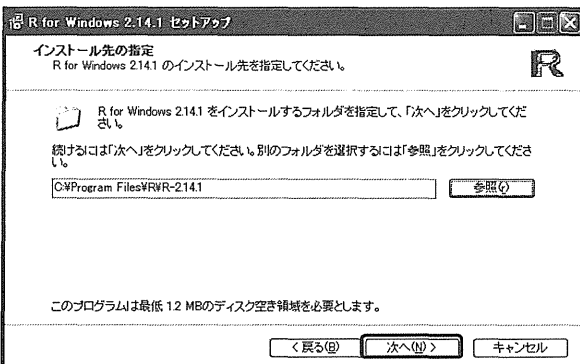
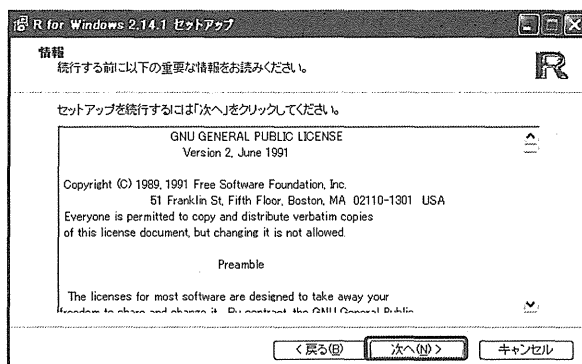
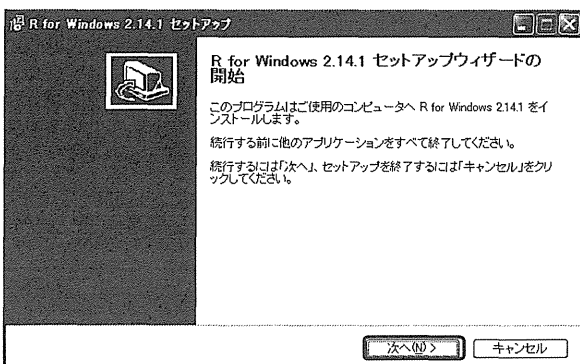
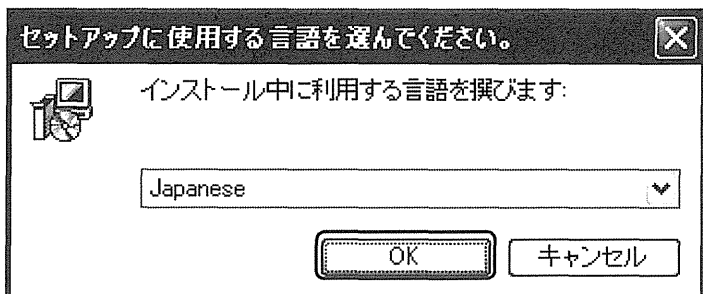


②ダウンロードしたプログラムをダブルクリックしてインストーラを起動します。

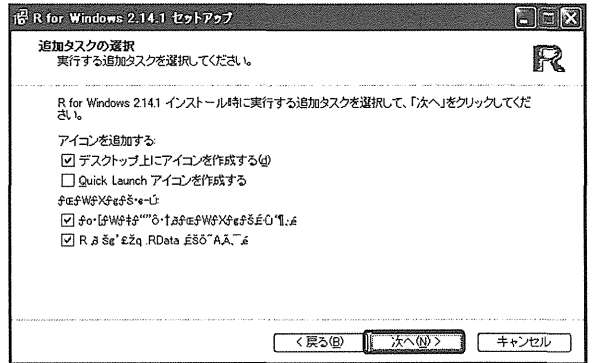
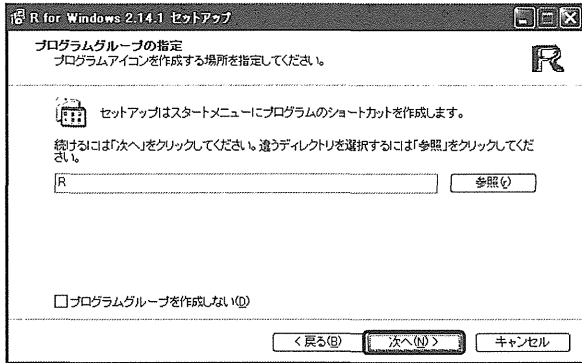
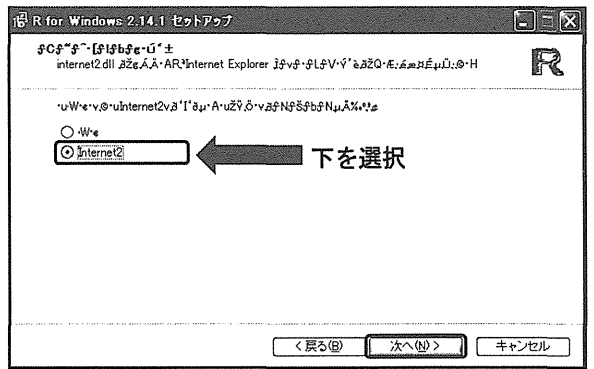
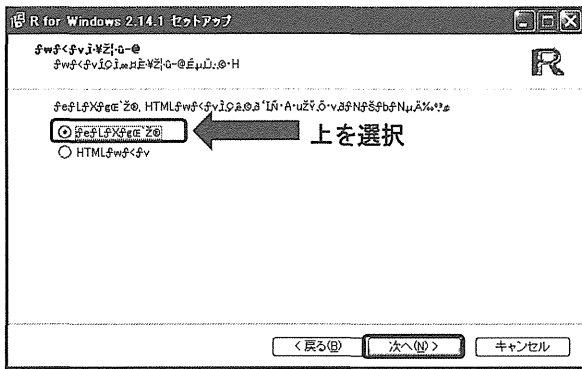


R-214.1-win.exe

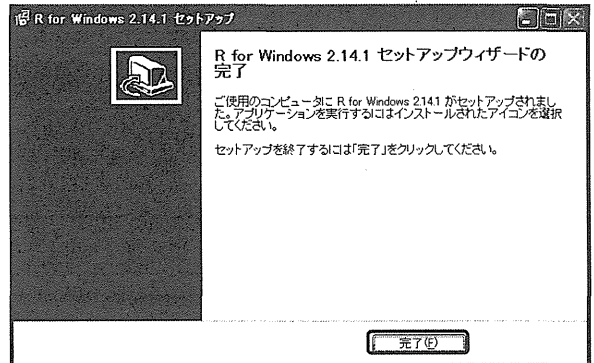
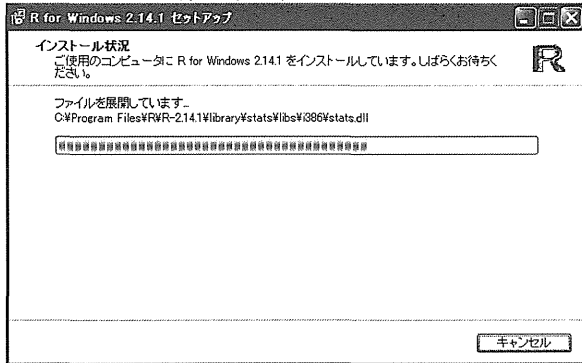
③インストール



文字化は気にしないで次へ



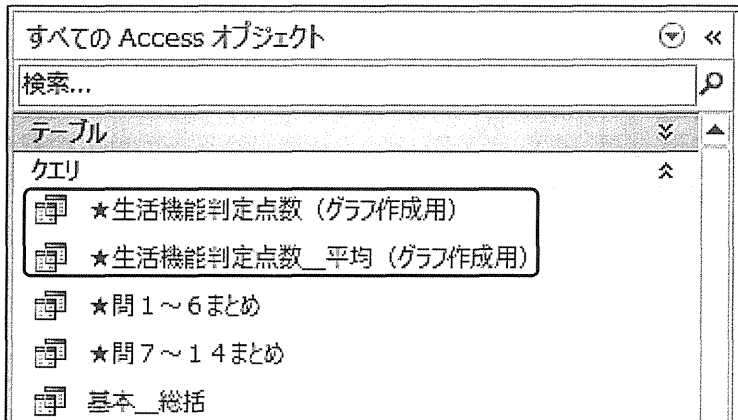
インストールが始まります



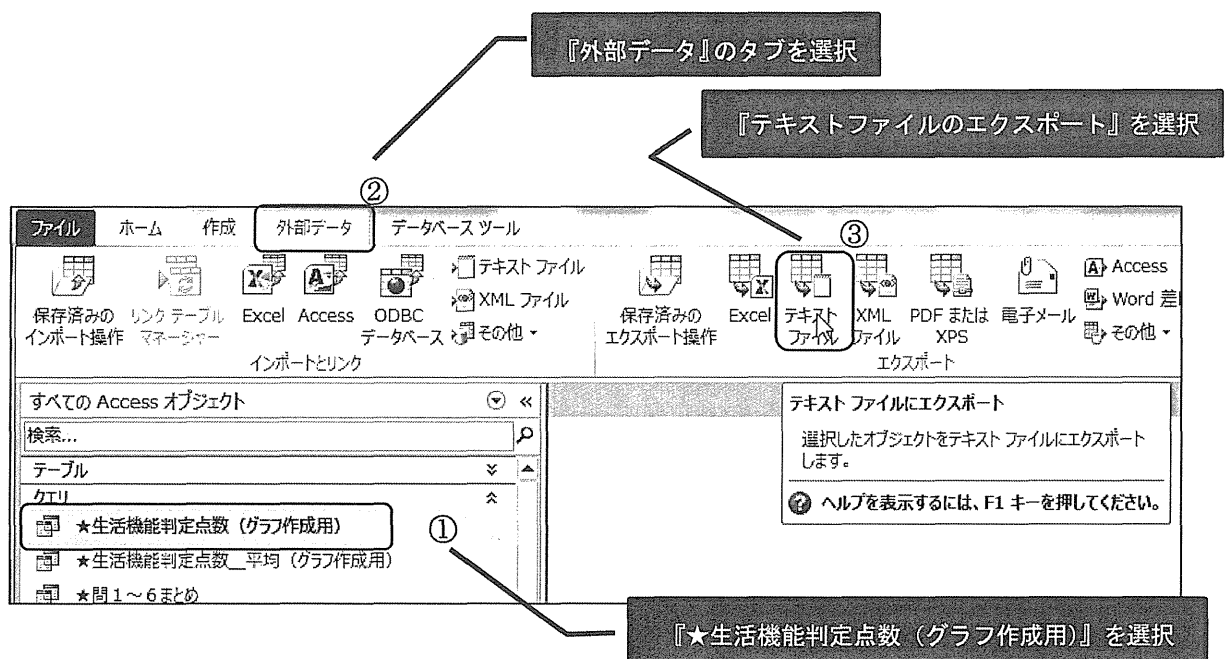
5. 2 グラフ作成用データの作成

Access に登録されたデータからレーダーチャート作成用のデータを作成します。
個人のデータと全体の平均の2種類作成します。

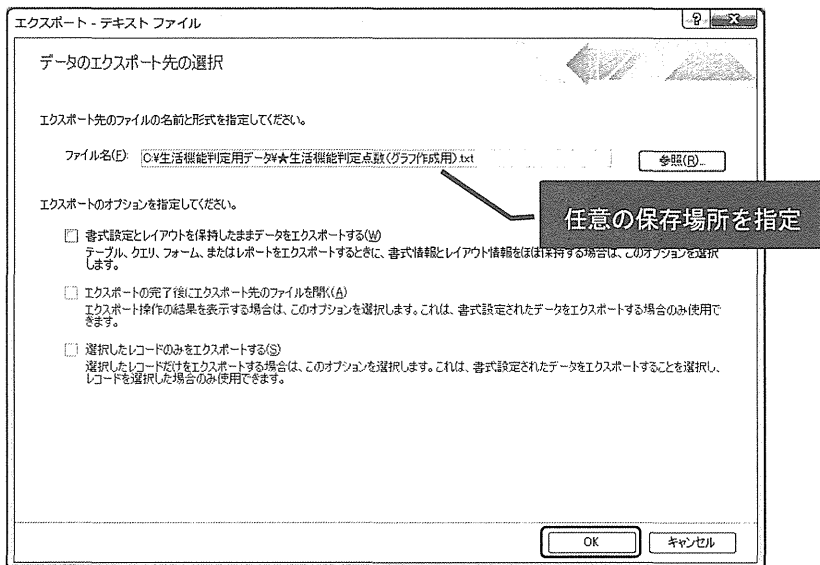
以下の2つのクエリがレーダーチャートのデータになります。



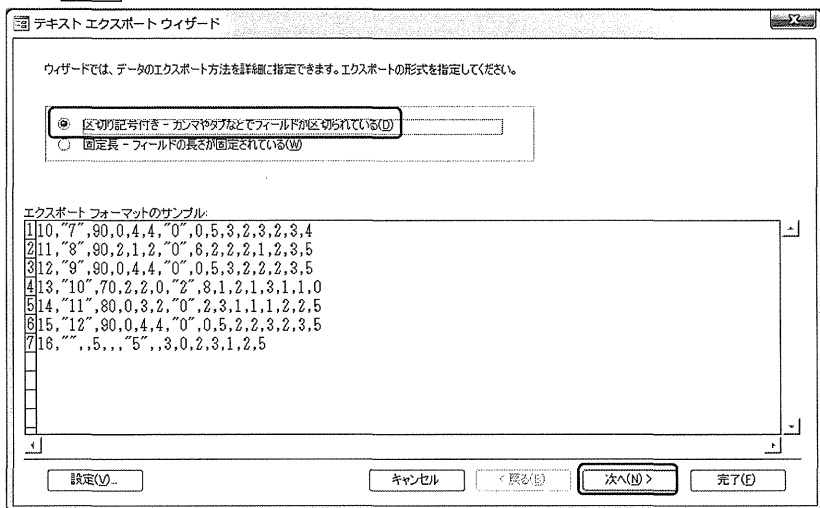
(1) 『★生活機能判定点数 (グラフ作成用)』のエクスポート



(2) データの出力先を指定します。

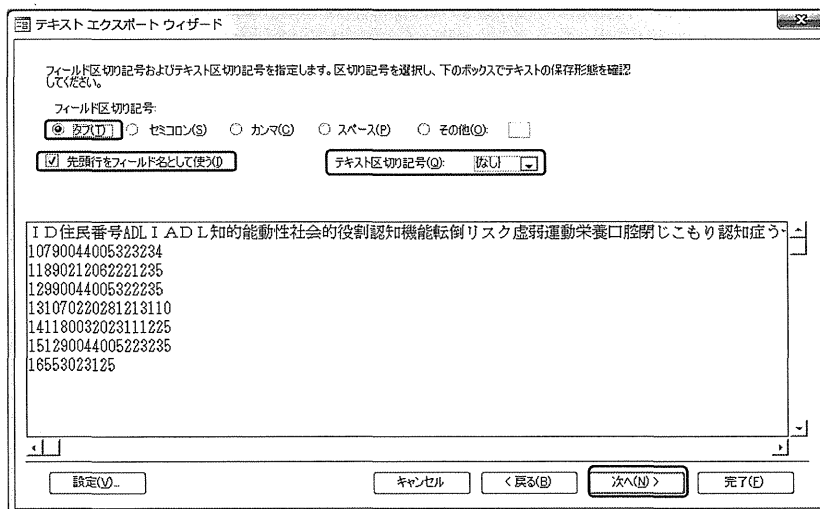


(3) 次へボタンを押す



(4) 保存形態の指定

以下の形に設定を行います。

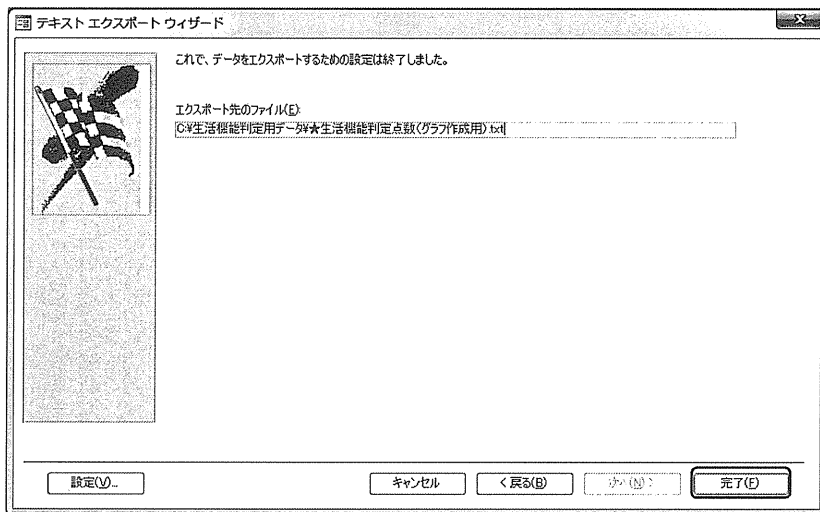


フィールド区切り記号：タブ
先頭行をフィールド名として使う
テキスト区切り記号：なし

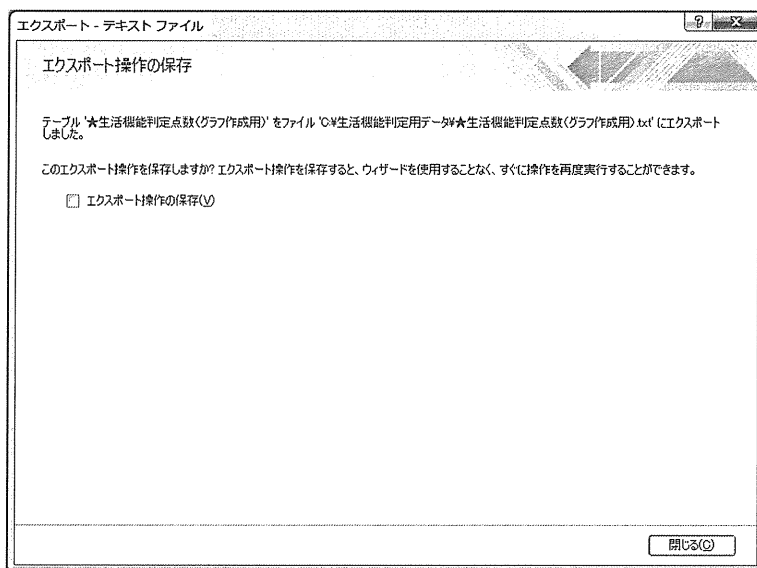
変更前の設定内容

フィールド区切り記号:
 タブ(T) セミコロン(S) カンマ(C) スペース(P) その他(O)
 先頭行をフィールド名として使う(U) テキスト区切り記号(O):

(5) エクスポート先のファイルが正しいことを確認して完了ボタンを押す。



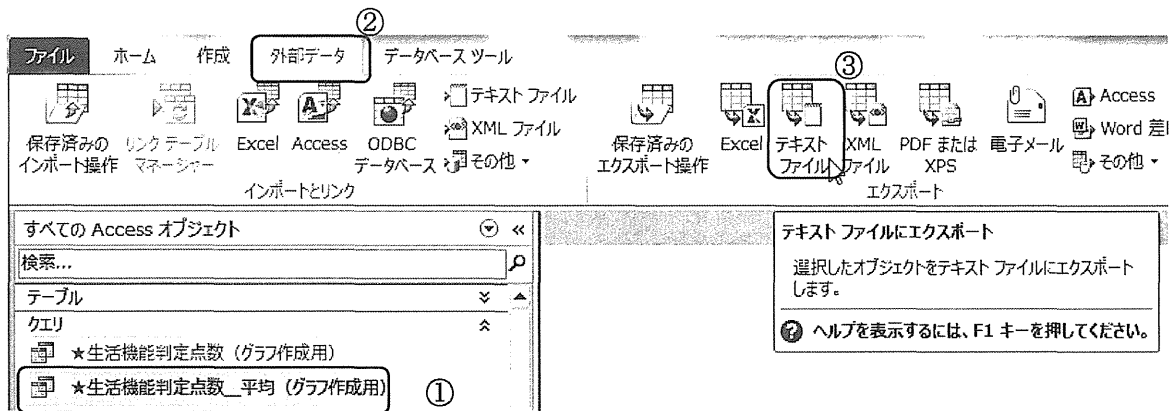
(6) 正常に終了すると以下ウィンドウが表示されます。



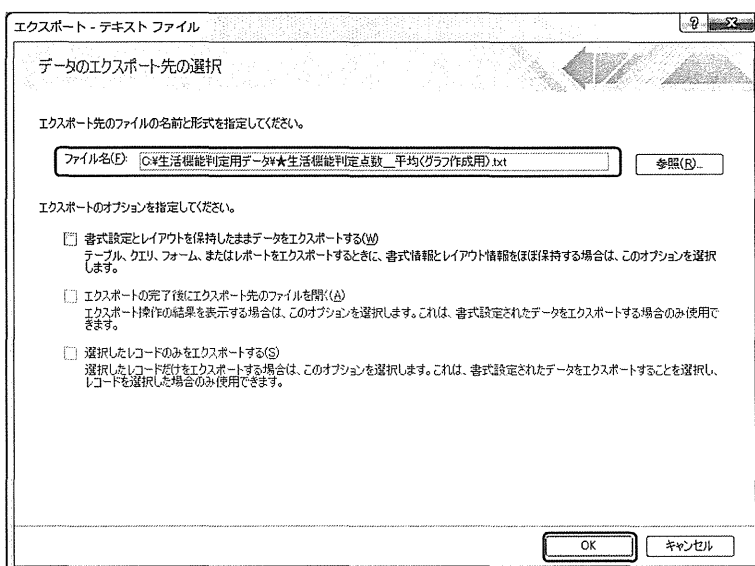
出力されたデータの例

★生活機能判定点数数 (グラフ作成用) .txt - メモ帳												
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)												
ID	住民番号	ADL	I	A	D	L	知的能動性	社会的役割	認知機能			
10	7	90	0	4	4	4	0	0	5	3	2	3
11	8	90	2	1	2	2	0	6	2	2	2	1
12	9	90	0	4	4	4	0	0	5	3	2	2
13	10	70	2	2	0	0	2	8	1	2	1	3
14	11	80	0	3	2	2	0	2	3	1	1	1
15	12	90	0	4	4	4	0	0	5	2	2	3
16			5				5		3	0	2	3

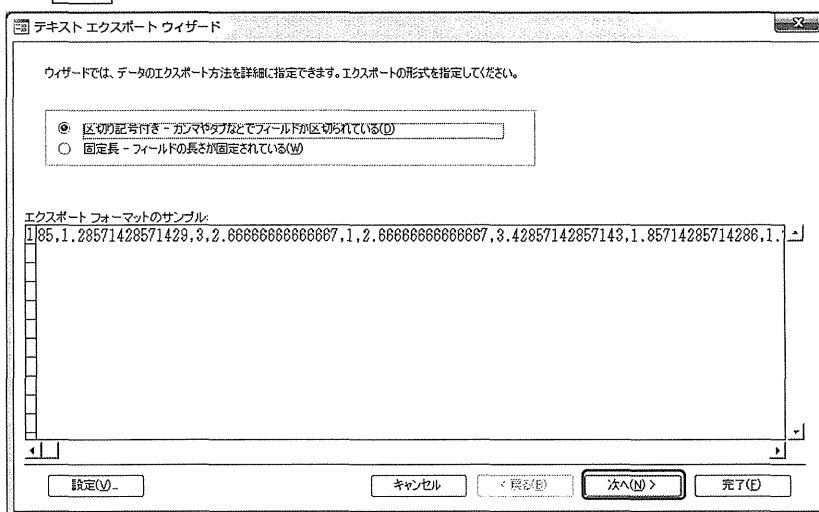
- (7) 『★生活機能判定点数_平均 (グラフ作成用)』のエクスポート
 (1) ~ (6) と同様の処理になります。



- (8) データの出力先を指定します。

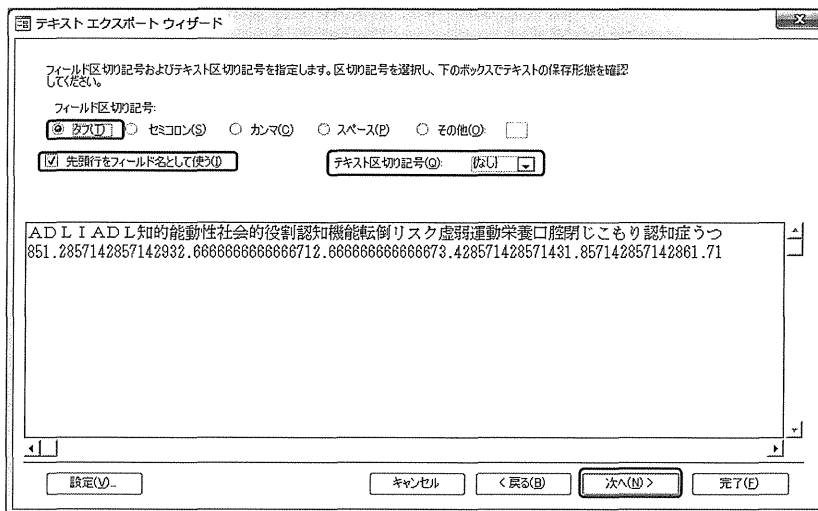


- (9) 次へ ボタンを押す

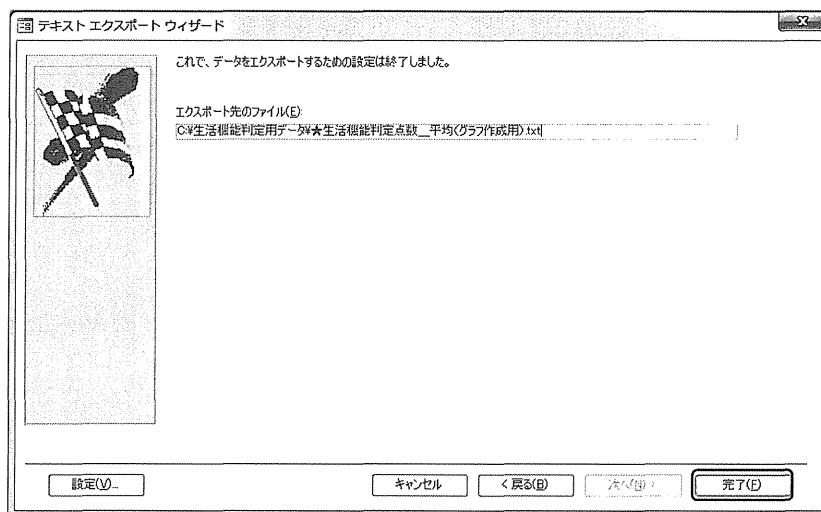


(10) 保存形態の指定

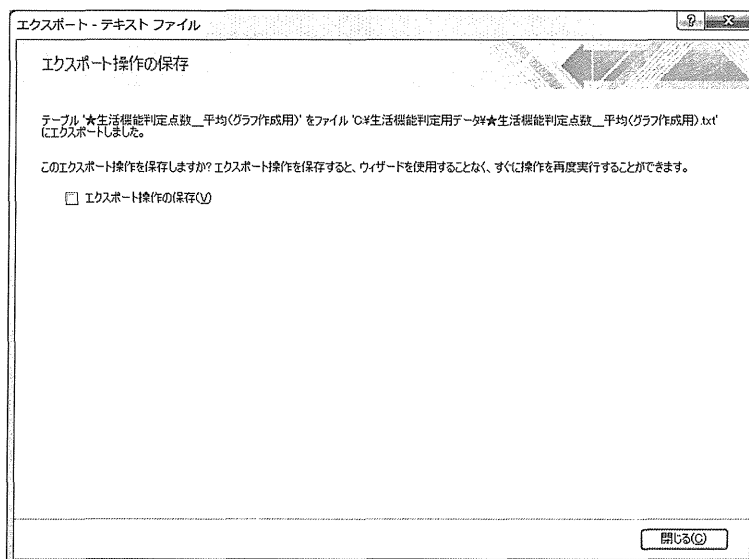
以下の形に設定を行います。



(5) エクスポート先のファイルが正しいことを確認して完了ボタンを押す。



(6) 正常に終了すると以下ウィンドウが表示されます。



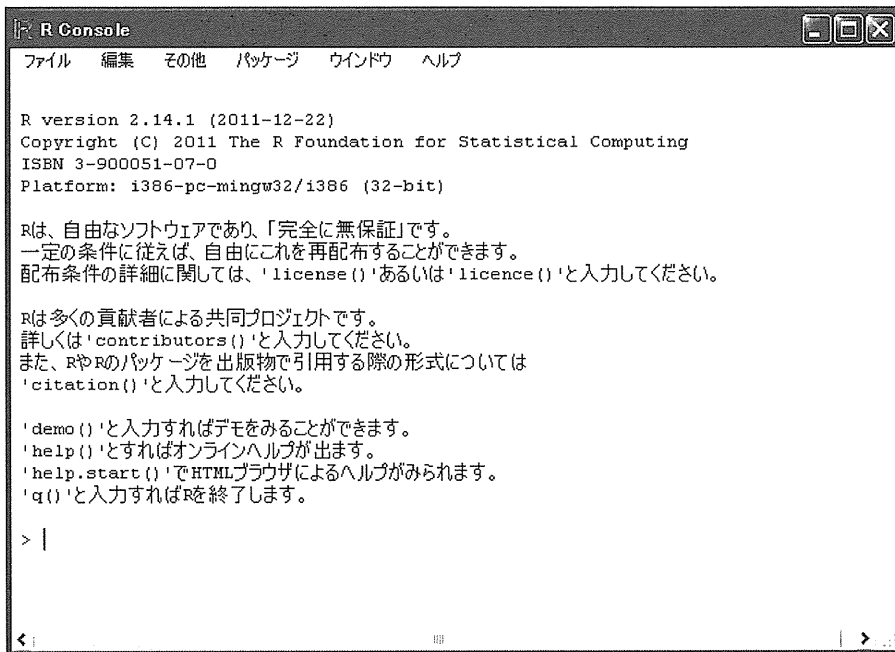
5.3 レーダーチャートの作成

(1) プログラムの起動

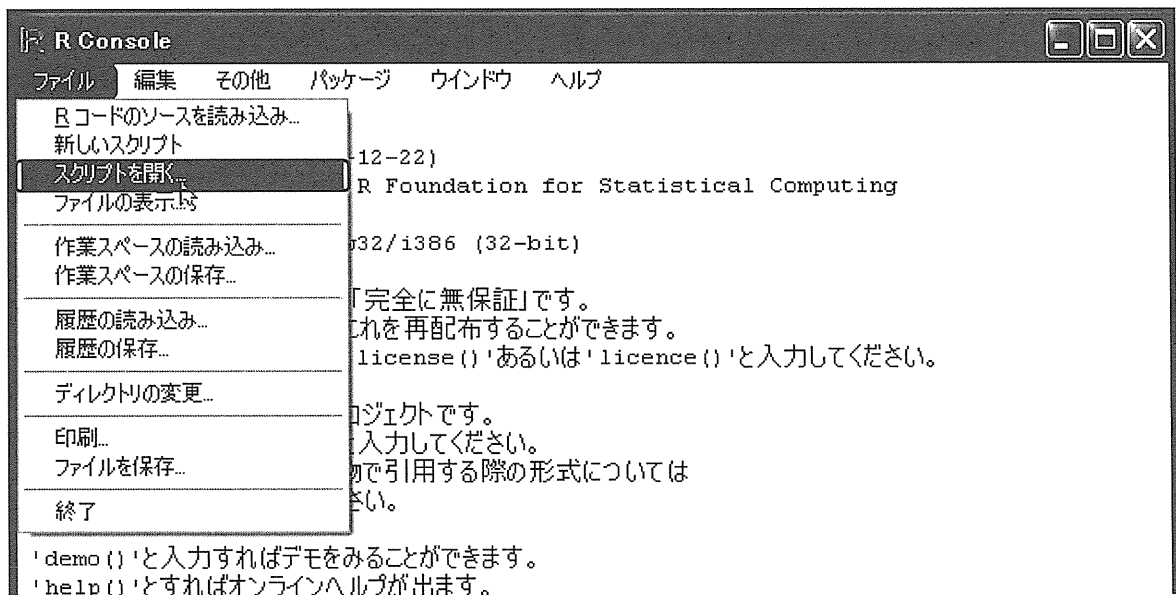
インストールにより以下の様なアイコンがデスクトップに作成されているのでこれをマウスボタンをダブルクリックして起動します。



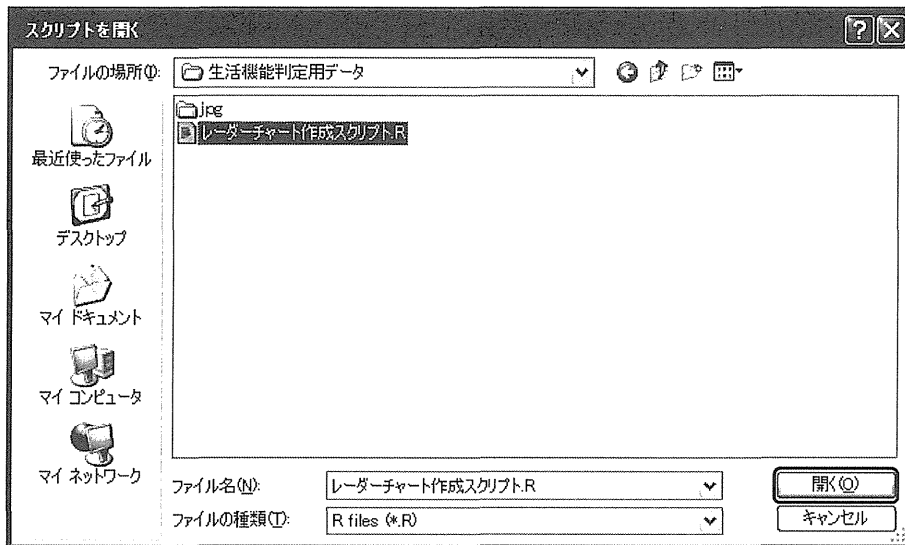
(2) 起動画面



(3) 「ファイル」 - 「スクリプトを開く」を選択



- (4) 以下のウィンドウが開くので配布されたデータにある「レーダーチャート作成スクリプト.R」を選んで「開く」ボタンを押します。



- (5) 別のウィンドウが開いて、グラフ作成に必要なプログラムが呼び出されるので、3つの項目を実際に使用している環境に合わせて変更します。(Windows上でディレクトリの指定は'¥'ですが、ここでは'/'になるので注意して下さい)

```

R: G:\生活機能判定用データ\レーダーチャート作成スクリプト.R - R1ディタ
ファイル 編集 パッケージ ヘルプ
#####
# ファイル環境に合わせて以下の3項目を設定
#####
#ファイル格納ディレクトリ設定
dir="C:/生活機能判定用データ/jpg" ← ①
# 判定内容取り込み()
# 判定内容の平均値取り込み
avg <- read.table("C:/生活機能判定用データ/★生活機能判定点数_平均(グラフ作成用).txt", header=TRUE, sep="\t") ← ③
# -----
# グラフ
# -----
#
# custom function to draw radar chart (a.k.a. spider chart or star chart)
# rev. 1.0 on 2 February 2008.
# rev. 1.1 on 13 February 2008, vectorized et al. due to Dr. Aoki's comments.
# rev. 1.2 on 24 March 2008, bug fix for error treatment / printing axis label (option).
# rev. 1.3 on 8 April 2009, plotting dot / interpolation for many missing data
# rev. 2.0 on 22 April 2009, the form of data-frame changed.
# code developed by Minato Nakazawa <nminato@med.gunma-u.ac.jp>
# freely distributable and being used for any purpose

```

①レーダーチャート格納ディレクトリ設定

作成したレーダーチャートの保存先フォルダを指定します。

- ②38ページの『(1)『★生活機能判定点数 (グラフ作成用)』のエキスポート』で作成したデータを設定します。

- ③41ページの『(7)『★生活機能判定点数_平均 (グラフ作成用)』のエキスポート』で作成したデータを設定します。

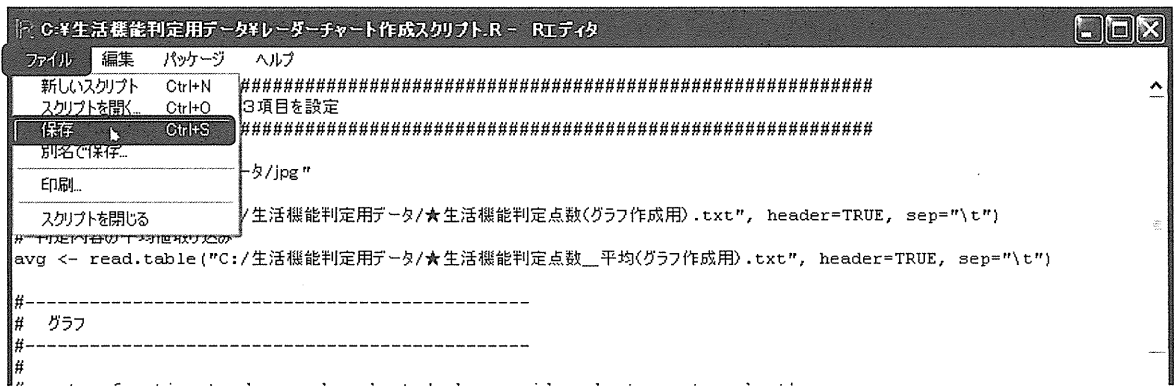
『①レーダーチャート格納ディレクトリ設定』した内容は実行環境設定のグラフ画像保存フォルダで指定してください（最後に'¥'が追加されているので注意）

実行環境設定

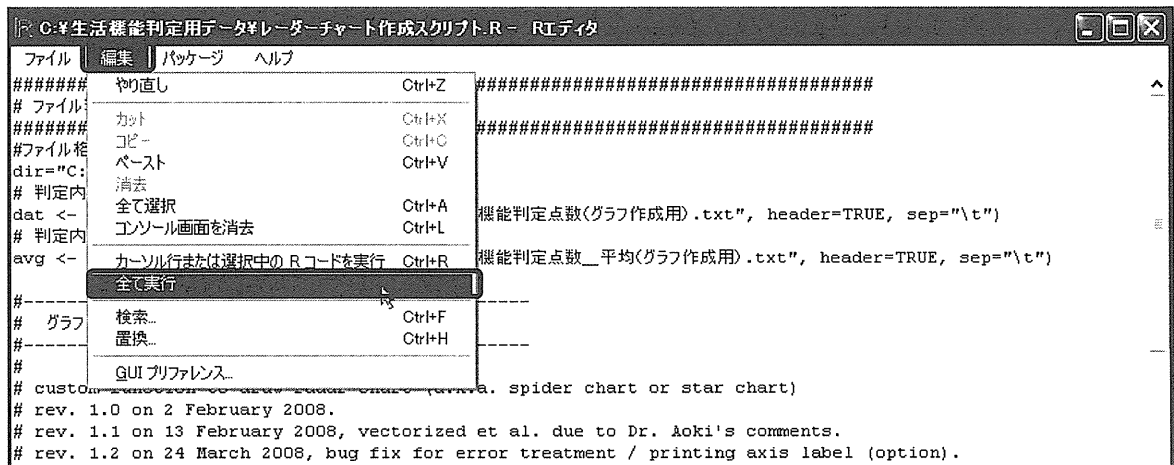
グラフ画像保存フォルダ

市町村名

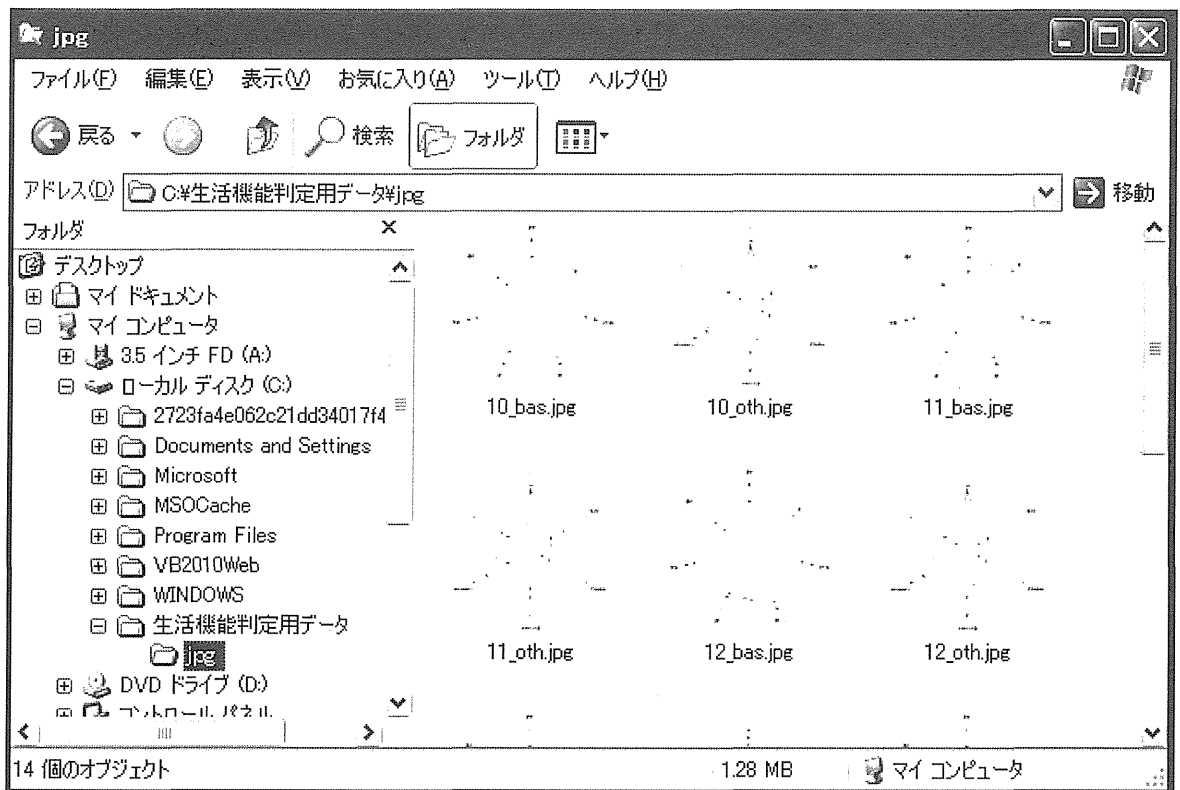
(6) 「ファイル」 - 「保存」 を実行して変更内容を保存します。



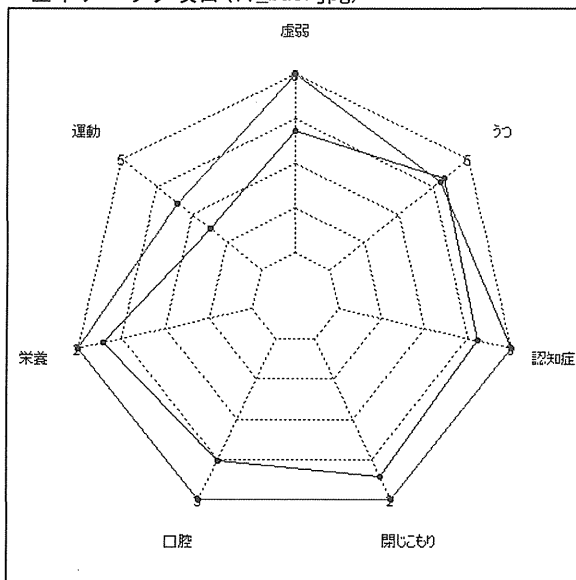
(7) 「編集」 - 「全て実行」 を実行するとレーダーチャートの作成が始まります。



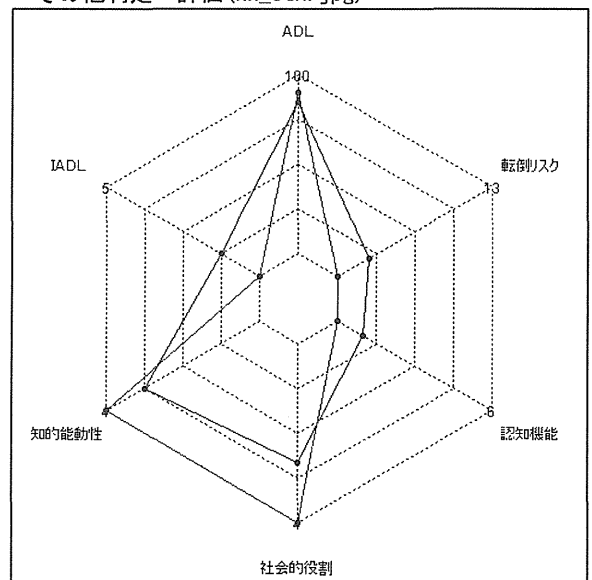
実行が終了すると、(5)-①で指定したディレクトリにレーダーチャートが作成されます。



基本チェック項目(??_bas. jpg)



その他判定・評価(xx_oth. jpg)



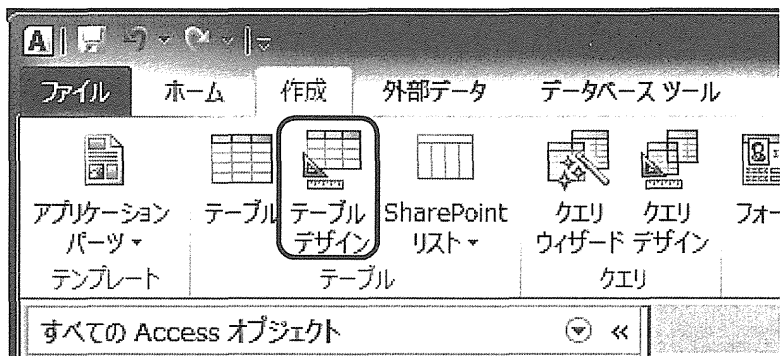
6. QUICK8による評価

環境設定

QUICK8を利用するために必要な設定手順を説明します。

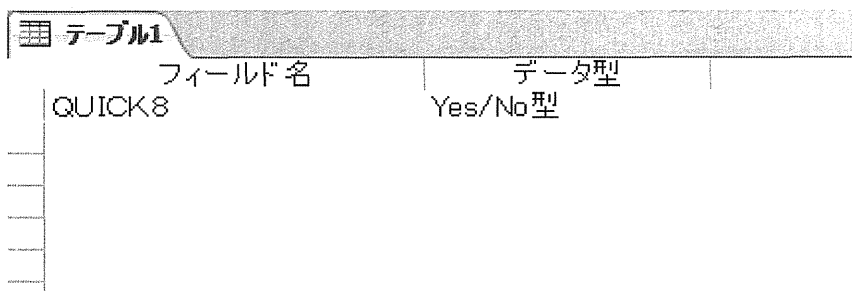
(1) 設定テーブルの作成

①リボンの「作成」－「テーブルデザイン」をクリックします。

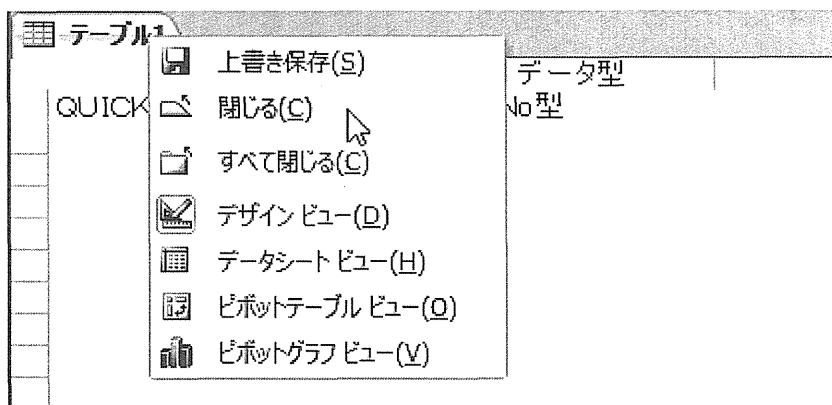


②以下のフィールド名、データ型を設定します。

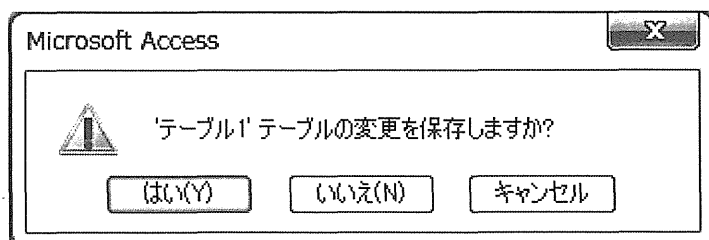
フィールド名は全角文字で入力してください。



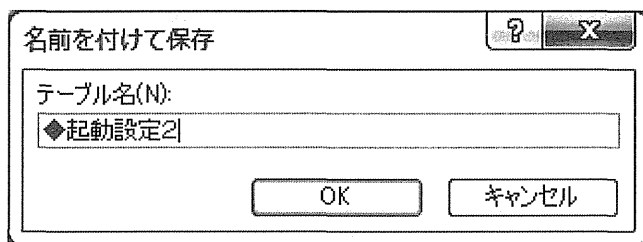
③テーブル1の位置でマウス右ボタンをクリックして「閉じる」を選択し画面を閉じます



④以下のメッセージが表示されるので「はい」を選択します。

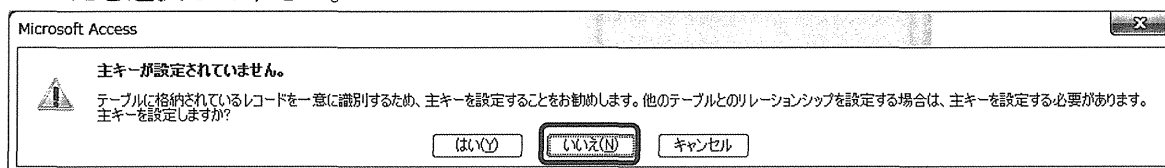


- ⑤テーブル名を指定するウィンドウが表示されるので、『◆起動設定2』と入力して下さい。
名は全角文字で入力してください。

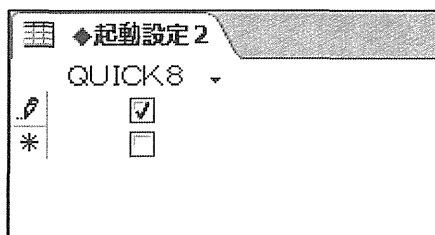


◆は「しかく」と入力して変換すると表示されます。

- OKボタンを押すと『主キーが設定されていません。』とメッセージが表示されますがここはいいえを選択して下さい。



- ⑥ここで作成したテーブルを開いてチェックボックスをオンの状態にします。



QUICK8

